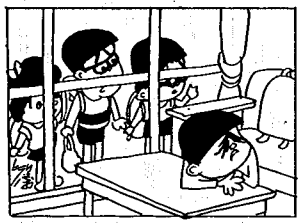
温かな心づかいで導いて……

新入園・入学児童への〝心得帳〟

四月から新しく入園・入学する子どもさんを持つ家庭では、健康のことをはじめ、うまく集団生活をおくれるだろうか、友だちはできるだろうか、交通事故にあわないだろうか——考えれば考えるほど心配のタネがつきないものです。

そこで、入園・入学にあたって、お母さん方に気をつけていただきたい心得のいくつかをご紹介しましょう。



〝心の疲れ〟を見抜こう

勝気な子どもが幼稚園や学校に行きたくないときは「イヤ！」と口に出してゴネますが、内気な子どもは腹が痛いとか頭が痛いといって、間接的に表現します。

イヤになった理由はと聞くと、ランドセルが友だちのよりよくないとか、帽子を友だちにひやかされたとか、ちょっとしたことが原因になっています。

また、幼児的な感覚から、背の高い先生とか声の大きな先生を怖がったり、授業中トンチンカンな答えをしたために笑われ、そのショックで登校拒否を起こすのもよくあるケースだそうです。

子どもは、いままでの遊び中心の生活とは全くちがった環境に身をおくのですから、集団生活に一日でも早くなじめるように指導し、励ましてやってください。

では、どうすれば学校ぎらいになるのを防げるかというと、お母さんとしては、まず子どもが心理的に疲れていないかどうかを見分けることが先決です。学校に行くのをいやがっても、「小学生になったのだから…」などと一方的に叱るのは、いちばんよくありません。

一年生になった喜びをもって楽しく通園・通学できるよう、温かい心づかいがほしいものです。

気をつけたい子どもの動作

通園あるいは通学し始めて一、二週間もすると、緊張感などが積み重なって、どっと疲れが出てくるものです。

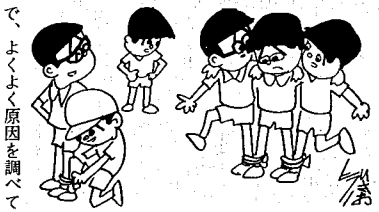
疲れの症状としては、朝なかなか起きられなかったり、頭痛、便秘、下痢になる場合もあります。また、動作が鈍くなって目がどんよりとしたり、顔色がわるく、家の中でゴロゴロするようになったりします。

そういうときは、ゆっくり休ませるなり、子どもがやりたいことを好きなようにやらせるのがよいでしょう。そのほか、風呂に一緒に入った時とか、食後の団らんのときに、学校のことや友だちのことについて、よく話を聞いてやりましょう。「ぼく、おもらししちゃった」とか、ちょっとした悩みをうちあけるようになれば、しめたものです。

ささいなことでも親に理解してもらえば、それだけ心が落ちつきます。

そのほか、親が意外に気がつかないのは子どもの近視、乱視、弱視、耳がよく聞こえないといった症状です。子どもが授業についていけないのは、よくよく原因を調べてみて初めて分かったという例がよくあります。

ふだんから担任の先生とよく連絡をとり、子どもの体調をしっかりつかんでおくことが大切です。



登校拒否につながる不定愁訴

入学して一～二か月ぐらいたつと、体の病気以外に精神的な疲れから、学校がイヤになる児童がよく見うけられます。

このような状態を専門用語で「不定愁訴」といいます。これは、これといってはっきりした原因や思いあたるものがないのに、頭が痛い、おなかが痛い、のどがかわいてしょうがない、などと訴えたり、イライラしておこりっぽい行動が目立ちます。

こうした傾向は、幼稚園児や小学校の低学年の子どもにも多く、ある市の小学生、幼稚園児約八百人を対象にした調査によりますと、幼児では約半数、小学生では約七〇％の子どもが、なんらかの不定愁訴があるという結果が出ています。

とくに新入学の子どもにとって、この不定愁訴は登校拒否につながる恐れがあるようです。

お買物、ご用命は市内で

コンコルドとは調和の意味です

＝一年間洋酒にフルーツと木の実を漬けてケーキに入れて焼きました＝

世界の紅茶
トワイニングを
お使い下さい

ケーキとコーヒーの店
にいつ ホーサカマ
本町2 TEL (2) 0112

まず、友だちづくりを

これまで家庭の中で〝お山の大将〟をきめ込んでいた子どもたちも、幼稚園や学校に入ると、周囲は見知らぬ顔ばかりです。しかし、友だちづくりは急速に進みます。一日も早く友だちをつくることが、子どもたちにとって通園・通学をより楽しいものにする第一の秘けつです。

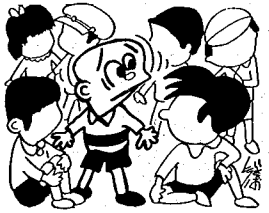
自己主張の強い子は協調性に欠けるところがあり、集団の遊びになじめず、すぐけんかをはじめたりします。また、口の重い子とか神経質な子どもは、集団生活のなかでがまんすることがなかなかできません。こういった性格の子どもに対しては、母親はそれとなく手助けをしてあげ、一日も早くみんなと一緒に遊べるように導いてやってください。

たとえば行き帰りの道も、近所の友だちや上級生といっしょに行動させるなどして、集団生活のルールを身につけさせるのもよいでしょう。

近くに同じ年ごろの子どもがいなかったり、適当な遊び場所がなかったりすると、子どもはどうしても家にとじこもりがちになります。外に連れ出して一緒に遊んでやるとか、友だちを見つけてやるように心がけたいものです。また逆に、自分の家に友だちを呼ぶなど、積極的に家庭を開放するのもよいでしょう。

友だち関係で気をつけたいのは、子どもの前で友だちの欠点を口にしないことです。

集団生活のルールを身につけて楽しい毎日のある子どもたち



「あの子と遊ばないように」とか「もっとよい友だちはいないの」などというのは、単なる大人の感覚でしかない場合が多いものです。まず子どもの世界を知ること。これが母親の第一の役割といえましょう。

約束や規則を守る子に

幼稚園や学校には、集団生活のきまりがあります。家庭では許される依頼心や甘えも、これからは通用しません。みんなで決めた約束やルールを守ることは、社会生活をしていくうえでの第一の基本です。幼稚園や学校は、子どもにとっては最初に経験する社会であり、ひとりの〝市民〟としてのスタートの場でもあるのです。

用便や洗顔、食事のあとがたづけ、衣服の脱ぎ着など身のまわりのことは自分でするようにしつけ、集団生活の規則やエチケットをわきまえさせることが大切です。

また、対人関係のエチケットとしては、「はい」「いいえ」「ありがとう」「すみません」をはっきりいえるようにしておきたいものです。

ところで、決まりや約束が守れたら、忘れずにほめてやりましょう。守れなかったときは、しかる前に子どもの身になって、たとえば内容的に無理がなかったかどうか、強制しすぎて子どもの心情にキズをつけるようなことはなかったか——などの点をよく考えてから、適切な助言をするのが効果的です。

すべてに自主的な関心を

子どもが小学校に入学するということは、社会的、集団的生活のルールを守ることに大きな意義があります。

ところが、母親は母・子の分離を怠り、子どもにあれこれを言いつけることに夢中になっているようです。子どもに自発的、自主的にやっていかせることを忘れているようです。

そこへもってきて母親は「さあ、学校へ行くようになったから、しっかり勉強するんですよ」といい続けてばかりいると、勉強ぎらいにさせてしまうようです。

子どもが、どうすれば学校・学級生活や学習に関心と興味をもつようになるかということに注目すべきです。

そうして、みんなと仲良く励ましあい、楽しい学校生活を送るようにさせることです。こうして親として、どのような態度をとればよいかということを、先生や親同士、PTAなどで学ぶようにしたいものです。

教育評論家 松本 伸夫

お買物、ご用命は市内で

冬期間ガス安全使用のアドバイス

●ゴム管はガスせんの赤線部分までさし込み安全バンドで固定しましょう。
●ストーブは点火をはっきり確かめて。
●ガス器具使用の時は必ず換気を忘れずに。
●ガスもれに気づいたら窓を開け放し、元コックを閉め、すぐに連絡をして電気のスイッチの点滅は絶対にしないように。

越後天然ガス㈱ TEL 4—2171